

五十周年を迎えて

50 さいおめでとう

2年 ちばな ももこ



とみの校、50 さいおめでとう。

とみの校が生まれていたころはまだ、わたしは生まれていません。この前、むかしのことをききました。わたしは、とみの校のことがいっぱい知りたいです。そして、とみの校が大すきになりたいです。

今のとみの校は、8人なので、20人ぐらいにふえてほしいです。もっともっときれいな学校にして、みんなとなかよくおべんきょうをしてみたいです。

とみの校 50 さいおめでとう

2年 やなぎさわ ゆき



とみの校は、お花がいっぱいさいていて、ちょうちょもいっぱいいます。2かいのピロティーから海も見えるし、はんたいからは、山もみえます。とみの校は、いいところにあると思います。

とみの校は、8人しかいないので、さびしいです。もっとふえるといいなと思います。ことしは、1年生がいないので、おねえさんになれませんでした。3年生になったら、1年生や2年生がくるといいなあ。

わたしは、とみの校を楽しい学校にしたいです。

富野校 50 周年

3年 永尾 乃 亜



今年で、富野校は50 さいになります。

50 年前のことをきょうとう先生やまたよしカツ子さんたちから聞いたりしました。

50 年前の米原・富野はジャングルみたいだったそうです。それから、電気もないので、ランプで生活していたそうです。

また、むかしは、おそろしい病気もあったそうです。それは、マラリアです。マラリアにかかったら、死んでしまうこともあったそうです。

昔は、そんなにも大変だったのかと思いました。

今は、めぐまれています。富野と米原のみんなでがんばっていきたいです。



50 周年おめでとう

4年 知 花 壮一郎

富野小学校は、今年で五十周年をむかえます。

富野校は、自然いっぱいの元気あふれるたのしいがっこうです。

近くには、うしごやがありいつも、うしたちはぼくたちが勉強するのをみています。

ぼくのお父さんは、いまPTA会長をして地域の人たちや富野校のみんなといっしょに50周年のおい
わいのじゅんぴをしています。

次は、60周年・70周年……そして百周年になるので、その時は富野校のためにがんばりたいです。
百年後の富野校がたのしみです。

150周年、200周年まで、あったらいいな。



大好き！富野校

5年 知 花 茜

富野校は、今年で50才です。

この間、又吉カツ子さんを招いて、昔の富野や米原のことについていろいろ教えて
てもらいました。マラリアにかからないように黄色くなるまで粉をぬった事、昔は
先生が生徒をたたいても親は「ヨーシッタイ」としか言わなかったことなど話してもらいました。

今、私は総合的学習の時間に昔の富野校について調べています。富野校は川平校から分かれてきたこと
が分かりました。一番ビックリしたのは、中学校が一度廃校になったことでした。

これからは、大好きな富野校が、もっと花いっぱいの学校になるように、がんばります。

富野校、50周年おめでとう!!



富野校、サイコー！

6年 永 尾 真来人

今年で富野校は満50才になりました。小学3年生以上は総合的な学習の時間に、
富野と米原のことをテーマに調べ学習をしています。、ぼくはカンムリワシのことを
調べています。なぜカンムリワシを調べてみようと思ったかということ、最近よく富野校にカンムリワシ
がやってくるからです。調べてみてぼくが一番びっくりしたことは、カンムリワシは外の島にわたったり

しないということです。

ぼくは、富野校はいいところが二つあると思います。一つ目は、植物の楽園のような学校だということです。みんなで水をあげたり、手入れをしたりしているからそうなったと思います。二つ目は、みんなで力を合わせれば、百人力のパワーをもっているところです。

ぼくは胸を張っていいます。

「富野校、サイコー！」



送る言葉

中学1年 宮村 龍三

「おはようございます。」

この学校に入ってから何回この言葉をいったでしょうか。7年間という長い月日を僕は富野校で過ごしてきました。しかしそれは富野校の歴史に比べればとても短いものです。富野校は、米原に人が入植してから50年間米原・富野の人と一緒に過ごしてきました。その50年という長い時間に比べれば、7年間なんて10分の1ほどなのです。

そう、富野校は50周年を迎えたのです。僕は富野校の校舎の形や、通路、近道、ひび割れがどこにあるかなども知っているつもりです。しかし実際には、富野校は一言では言い切れないほどにたくさんの事柄があったのです。富野中が閉校になったり、川平分校から富野校になったことなど、僕が知らないようなことがたくさんあったのです。そういう僕が知らない富野校がわかってきたと思うと、ますます富野校が好きになったような気がしました。そして心からこの言葉を富野校に言いたくなりました。

「50周年、おめでとうございます。」

「創立 50 周年」

中学2年 永尾 来津樹



「創立50周年」。この富野小中学校ができてからもう50年もち、きっと色々な出来事があったことでしょう。この伝統ある富野校の50周年行事を富野校の先輩方と迎えることができとてもうれしく思います。

以前、又吉カツ子さんを講師に迎えて、米原・富野の50年のお話を聞きました。読谷から船に乗り、この米原を開拓をするためにやってきたことや、マラリアに苦しみながらの貧しい生活を送ってきたなど、50年前の富野小学校の周りの様子は、今の僕には想像もできないような話ばかりでした。

一方、富野校についても、一時は、児童生徒が100人を越えるほど多い時もあったのに、富野中学校が閉校になるほど生徒数が減った年もあったようです。このようにいくつかの困難を乗り越えながら現在の富野校はあるのです。

50年という月日を見ると、本当に長い間多くの児童生徒を見守ってきた富野校に感謝したい気持ちでいっぱいです。僕がこの輝ける記念の年に在校できることを本当に誇りに思います。

創立50周年おめでとうございます。

心に残るブーゲンビリア

養護教諭 慶田盛 みほ子

トンネルを抜けるとエメラリドグリーンの海が目飛び込み、さらに左折するとピンクのブーゲンビリアが心を和ませてくれる。そんな場所に勤務していることが信じられないような毎日です。

大本小学校に勤務している頃、オモトトンネルの工事が始まっておりました。トンネル工事を大本小学校の児童・職員で見学に行ったことがありました。「女性が入るとトンネルの神様が怒る」と言われ、中は見させてもらえませんでした。初めて見る工事風景でしたので、印象に残っております。このトンネルが貫通すれば、向こう側はどんな景色だろうかと想像を張り巡らせておりました。また、底原ダム建設中にも定礎式があるということで見学に行ったことがあります。富野小学校の内示をもらった時、そのようなことが思い出され、あの頃からこの富野の地は縁があったのかなと思いました。

これまで島言葉の中にいた私は、富野校に来てヤマトウグチの子どもたちの言葉に驚きました。大田山林に太平洋、時折り聞こえるかんむりわしの声と自然を満喫できるこの環境で「わたしは何処にいるのだろう？」と自問自答している毎日です。

私の中での富野校といえばブーゲンビリアです。富野校が市の花壇コンクールで最優秀賞を受賞した頃、「富野校のブーゲンビリアがきれい」と言う巷の噂を聞き、枝もたわむほどに咲き乱れたブーゲンビリアを見に来たことがあります。富野校に赴任して、「ほけんだより」は「ブーゲンビリア」と名付けました。私のポリシーとして「ほけんだより」のネーミングは、その学校で印象に残ったことをつけることにしています。

これまで過ごしてきた中で感動的なことは、かんむりわしが身近で普通に見られるということです。また、運動場に現れる小動物で季節を感じることができるということです。

自然に恵まれた富野校がいつまでも続きますようお祈り申し上げ50周年の節目にあり乾杯！

富野校 50 周年の節目に

小学校教諭 工 藤 直 也

「豊かな緑と目の前に広がる青い海」50 年前も今も変わらぬ景色なのだろうと思いながら、富野校 50 年の節目のときを迎えました。また、学校の 50 周年と時を同じくして富野校区である米原地区の入植 50 周年も迎えました。それぞれの 50 周年事業に取り組むに当たり、学校や地域の歴史に関する資料に目を通したり、OB、OGのみなさんのお話を聞いたりする中で、さまざまな苦勞があったことを知りました。

特に、入植当時の開拓の様子は便利な世の中に生活している私たちには想像できないほどの厳しさであったようです。このように先人達の努力があって現在の富野校や地域が存在していることを認識したのと同時に、自分もまた富野校や地域の歴史の 1 ページに名を連ねるのだと思い、新たな緊張感を覚えました。

富野校赴任の年に迎えた 50 周年。これからも 50 年先も、今と変わらぬ豊かな緑と青い海に囲まれたすばらしい富野校であるよう、しっかりと橋渡しをしていこうという思いです。そして、なによりもこの橋渡しの大切さを富野校に在籍する児童生徒にしっかりと伝えていきたいです。

富野校 50 周年に寄せて

中学校教諭 喜友名 朝 和

前任校でも創立 50 周年式典というものを経験しましたが、毎年 200 人前後の卒業生を輩出している大規模校らしく、総勢 1 万人前後の卒業生の名が記念誌にずらりと並んでいました。50 年という歴史の重みを具体的な数で感じた 50 周年式典でした。

さて、富野校ではどうでしょうか？

中学生が、式典に向けて卒業生の名簿を作成しているところを覗いてみました。なんと、その数 205 名！

「あれ？ 50 年間でたった 205 名？」

前任校の記憶も新しい、赴任初年度だったので、改めて富野校が小規模の学校であることを実感しました。さらに、「本当にこの人数で式典は盛り上がるのか？」という不安も同時に感じました。

しかし、いざ式典が始まると、そのような不安は取り越し苦勞に終わりました。卒業生の多くが一同に会し、波平棒の勇壮な演舞や、三味線演奏、様々な催しで会場内は大盛況！また、来校者に振る舞われた牛汁もまた最高でした。（前任校では折りの弁当でした）ここ富野校では、参加者の温かい心遣いに 50 年の重み、歴史を十二分に感じることができました。

すばらしい思い出とともに迎えた富野校 50 周年。学校としての大切な節目に立ち会い、ともに喜ぶことができるとてもうれしく思います。これからの富野校のさらなる発展に期待しています。

50 周年おめでとう

教頭 知花 孝雄

於茂登山麓を吹き渡る風も穏やかに、校庭いっぱい咲き乱れる花。大自然の中のオアシスともいえる富野校。その美しさに、旅ゆく観光バスもスピードを落とし、しばし感慨にふける。

時 2003 年 11 月、数多くの卒業生や関係者が記念碑「美ら心」前に集う。恩師の仲本恒子先生、元校長の波平長吉先生他。同級生の千加子、純子、そして美佐子、律子先輩達。故郷を離れて幾数年。

異口同音に「まるで、どこかのリゾート施設に来たみたい。」と賛辞をもらう。

富野校、我が母校！今日は貴校の晴れがましい 50 周年の祝いの日だ！卒業生として教頭として祝える喜びで胸が高まりしっかりと校歌が歌えない。それにしても過ぎし日のあの頃の先生方や、地域の先輩方も他界されたりで顔が見えないのがちょっぴり残念だ。

昭和 26 年読谷に生を受け、米の土地接収など混乱期に父達の開拓への夢に連れられやって来た。我らを教育せんと昭和 27 年 4 月 29 日、富野校貴校の誕生だ！それ以来多くの卒業生を送り出してきた。我らが同期は 12 名。小 5・6 年生の担任は地元出身の知花義信先生。全員カマを持ち、運動場の半分もの草刈り。また、下の海岸から砂はこび。そして農園にキュウリを植えカヤを刈り敷く。学校のトイレから水肥を担ぎ肥料薪き。おかげでキュウリは大豊作。給食でたらふく食べた。働かされた思い出は尽きない。劇も「くさい、くさい。くさいと思ったらお百姓さんだ。」のせりふ。その先生も他界された。

時は流れ、アメリカ世から復帰という大和世。世替わりの中で、干ばつ・台風が故郷を襲い、離農が相次ぎ、往時には 100 余命を数えた仲間達が次々去った。一次産業の衰退は都市への一極集中を招きやがてバブルを経て新たな IT 時代へと突入している。

於茂登山から野底マーペーに連なる大田山林の眺めは昔も今も変わらない。その懐に抱かれた富野校の緑の大地で 8 名の児童生徒と飛び跳ねる先生方。毎日せっせと道路沿いの花に水をやる児童生徒達。皆が兄弟、家族であり自然も仲間だ。先人の努力で勝ち得た花壇コンクール 3 年最優秀賞の環境は今も維持され、自然の中に癒しを求めて転入生も後を絶たない。この美しい「緑と花の学校」富野校、そして桴海の美しい自然よ。いついつまでも変わることなく、卒業生の心のオアシスとなれ！我が母校 50 周年、おめでとう！

懐かしき富野校

元職員 仲本恒子 (旧姓 川上)

富野小中学校創立 50 周年誠にありがとうございます。

貴校の 50 周年の歴史は一言では表現できないほど厳しいものがあつたと思います。

ジャングルのような荒地を自らの力で切り開き、そこに住居を建て、農作物を植え、村作りをし、教育の場である学校まで築き上げてこられたことは、血の滲む程ご苦労なされた事とお察しいたします。

この度の輝かしい式典に、知花教頭先生からお誘いを受けた時は、嬉しさと懐かしさで一杯でした。と言いますのも教頭先生は、私が富野小中学校で教鞭を取っていた頃の教え子だったからです。私は現在教師生活を終え、那覇市長田に住んでいます。

今回の式典には、万難を拝してでも参列させていただこうと思いました。式典の当日、富野小中学校の校門に着いたとき、その懐かしさと諸々の素晴らしさに胸が熱くなるほど感動致しました。

花いっぱい校庭、見事な記念碑、立派な校舎と体育館、そして、式典に臨んでいらしゃるご来賓や先生方、生徒の皆さん、中学生の楽隊、式典が盛会裏に終わりますようにと、暖かい眼差しで見守っていらっしゃる期成会の方々とご父母の皆さん、その様子に心を打たれ目頭が熱くなりました。

思い返すと今から 39 年前の事でしょうか、富野小中学校に転勤が決まった時、私は米原の比嘉次郎さん宅に間借りさせて戴きました。そのとき一番喜んでいたのは、私の両親でした。「同じ読谷村楚辺の出身の方に巡り合えてよかったね。感謝して頑張るんだよ。」と安心したかのように言っていたことを思い出します。

当時の私は、24 歳だったでしょうか。家族の者は離島の僻地だということで大変心配していました。でも、比嘉さんはとても親切で私を家族同様にしてくださり、おかずやてんぷら、その他、美味しいものがあると私のためにとっていて下さいました。

月夜の晩には、次郎兄さんが三味線を弾いて楽しいひとときを過ごし、淋しいというより楽しい毎日でした。

そんなわけで、私にとって富野校はあつと言う間に過ぎた思い出深い 2 年間だったように思います。

生徒の数は 60 人余りだったでしょうか。教師の数は 7 人で、那根亨校長先生、崎山用喜先生、波照間英太郎先生、黒島直弘先生、大浜スエ子先生、山城藤子先生、並里良子先生、西島本イチエ先生、それに私、川上恒子の 7 人でした。

思い出と言えば、子ども達と一緒に魚つりをしたこと、浜辺で魚を串焼きにして食べたこと、その魚は小さくて黒く焦げていたがとても美味しかったこと、今でもその淡白な味が忘れられません。

又、ある時はヌスクマーベに登り、その伝説を語りあつたり、遠い水平線を眺めながら大きな声で唄を歌ったりしたことを思い出します。

自然と言えば、私の間借先の裏山には、天然記念樹の野やしが高く天をつくように聳え立ち、その下を歩くと、ひんやりと心地よく感じられ、私の好きな場所のひとつでもありました。

困ったことには、ちょっとしたすきにカラスが空中転回しながら飛んできて、タワシやら、食べ物やらを奪っていくのです。はじめは、その早業にびっくりしたり、感心したりしていましたが、度々やられているうちに、唯々呆れ返って眺めるばかりでした。

また、電話が知花商店にしかなかったので、村のすべての連絡が知花商店に集中することになるのです。今から考えると、知花さんには大変な迷惑をかけたもんだと今更のように思い、感謝すると共にお詫びしたい気持ちです。

学校行事と言えば、運動会や学芸会のことが思い出されます。

運動会では、校歌ダンスや全員リレー、組体操など、皆で協力しながら頑張り一人一人が主役で輝いていました。

学芸会では、英語劇や合奏、そして、インドの踊りを皆で振り付けしたり、衣装や小道具を作ったりしたことが今だに懐かしい思い出として残っています。

学校の施設面では、昭和 39 年に給食室が建てられ、当時の給食主任である並里良子先生と鍋や食器等をカタログから選び、注文したことを思い出します。

又、当時はお風呂のある家庭が少なかったので、学校の敷地にお風呂が建てられました。そこでは、子ども達、先生方と風呂に入る日時を決めて活用していました。

学校の西側には、かんなの花が植えられ、とても景観のよい場所でした。生徒も職員もその場所が好きで、遊んだり語り合ったり憩いの場所でした。

今回の 50 周年式典に参加するにあたり、当時のことが懐かしくそう走馬灯のように思い出され、あの頃の子どもの姿がタイムスリップしたかのようでした。

しかし、成長した教え子達を見たとき、まったく別人のように思え、あまりのギャップに戸惑いを感じました。教え子の皆さんも私に気づいた人は少なかったようです。35 年の月日がそうさせたんですね。でも、しばらく時間がたつ内に少しずつ昔の面影が見えてきて、和やかな雰囲気になり、ゆんたく会が続きました。

式典、祝賀会ともに盛会裏に終わり、大変有意義な一日を過ごすことができました。

又、子ども達の活躍ぶりに凄く感動し、頼もしく思いました。

最後に、富野校がますます発展し、地域の皆様方がご健康でありますように祈願致しまして私の思い出を閉じたいと思います。

富野校の思い出

第10代校長 大 仲 康 文

本校の創立50周年を心からお慶び申し上げます。

戦後の厳しい環境の中、昭和27年4月に川平小中学校富野分校として開校し、以来50周年の歳月を重ね貴重な歴史と伝統を受け継ぎ、輝かしい50周年の佳節を迎えられたことは、偏に関係各位の献身的努力によるものであり、深く敬意と感謝の念を捧げます。

私は、平成元年4月1日から平成6年3月31日までの5カ年間本校に勤務いたしました。

赴任当時は、学校の学習環境も十分とは言えず、普通教室（小③、中②）理科実験室①、図書室は音楽、集会室兼用であり、職員室の片隅に保健室があるのみでした。

体育館や給食調理室、食堂、中学校特別教室は無く、従って各教科の学習や給食調理指導には大変不自由な思いをしました。

又、年間雨量の多い地域だけに、特に冬季は雨天が続くので体育の授業は廊下や教室の机・腰掛けを片付けて行方など、通常の体育学習はできなかった。それに、父母や地域住民や児童生徒達が最も期待した運動会が雨天になると、体育館がないので少々の雨なら雨天決行を余儀なくされ、児童生徒は雨天の下でどろんこになって、かけっこや各種目・演技に一生懸命頑張った。

それに、父母や地域PTAの皆さんは走路に砂を運び敷いたり、ぬかった運動場にビニールシートを敷き、その上でマット運動や一輪車競技をさせるなど全員が一致協力してくれたおかげで無事に終了することのできた運動会は深く心に残り忘れることはないでしょう。

赴任当時の全児童生徒数は13人、職員数12人の小規模併置校で全学年複式学級であった。中には、兄弟姉妹も多く非常に仲がよくて家族的雰囲気であった。中学校は過去に廃校になったが、一年前に復活したばかりの中2の女子生徒1名でしたが、本人はとっても明るい性格であり、常に小学生達の中に入って指導したり世話をするので、小学生からとても慕われていました。たまたま、本人が風邪をひいて学校を休むことになると、中学校は休業状態になって先生達も授業ができなくなってしまふので特に生徒の健康には気遣っていた。

平成4年4月に、待望の給食調理室、食堂に中学校特別教室（音楽室、家庭科室、視聴覚室、図書室）が完成し、これまで不自由をしてきた思いが解消し、新教室で楽しい授業ができるようになった。又明るく広々としたランチルームでは、小中合同の会食ができるようになり、給食が何よりの楽しみとなった。児童生徒会は、記念に手作りの「シーサー」2匹を作成して2階の玄関両側に飾ることとした。

平成5年4月には、念願の初代教頭をお迎えし、それに児童生徒も急増し、一段と学校に活気があふれ、八P連主催童話・お話大会、中体連主催卓球大会に出場するなど大いに活躍し盛り上がった。父母、PTA、地域住民の学校に対する熱意には力強いものがあつた。学校行事への協力、校地美化作業、さとうきび、じゃが芋の植付・収穫、小動物園飼育小屋づくり、遊具取付作業など教育委員会予算とPTA・地域の労力奉仕によって学習環境が着々と整備されていった。

平成7年度には念願の体育館も建設されて、雨天時の体育学習や諸活動が自由にできるようになり、誠に喜ばしい限りである。豊かな自然の中に一番美しい花が咲き誇る。本校の児童生徒達が、願わくば“美ら心”を育み逞しく成長して世界に翔く有為な人材になることを期待し、今後尚一層学校教育の充実・発展が期せられるよう念じてやみません。

結びに意義深い創立50周年の節目を契機に本校が限りなく発展していくことを祈念いたします。

思 い 出

第12代校長 波 平 長 吉

緑輝く於茂登連山を前に、後ろは東シナ海の大海原を臨み、大自然に囲まれた桴海の大地に建つ富野小中学校が、創立50周年の佳節を迎えたことに心からお祝い申し上げます。おめでとうございます。あわせて、校区の皆様のみますみすのご多幸をお祈りしながら、在職当時の思い出を綴りたいと思います。

はじめに、私にとって、富野校・桴海地区は第二の古里であり、勤務した当時を思い出すとき、私を癒してくれるところです。関わりは22年（1980年）前になります。石垣島に転勤してきて、大規模校から小規模校に配置された初めての学校でしたので、喜んで赴任しました。当時、於茂登トンネルは開通しておらず、石垣島一週道路も未整備のままでした。ゆっくり走って50分の学校までのドライブは、バナナ岳を越え、名蔵湾に沿い、ヨーンの道をくぐり、そして桴海の森に至るという、まさに自然を満喫する通勤路でした。勤務は3年6ヶ月でしたが、その間に創立30周年記念事業（1983年3月）がありました。

記念事業では記念誌の発刊を担当しましたが、沿革誌の編集には大変苦勞しました。特に、富野分校開校（1952年4月）当時の児童名（7名）の記録がなく、地域の皆さんの記憶も定かでなかったことから、その調査に4ヶ月ほどかかりました。児童名がやっとわかった時は、格別に嬉しく忘れることができない大きな思い出です。

次に、7年前自ら進んで赴任することにしたのが本校です。着任しての第一印象は整然としたきれいな学校だと思いました。当時に、この美しさをいつまで持続させられるのか課題を背負うことにもなりました。又、在外での危機管理のアレルギーが尾をひき、児童・生徒の登下校時の安全管理について、父母の皆様と時間をかけて何回も話し合いをもったことを思い出します。

着任当初は、三年間の在外教育施設勤務のせいで、学校運営に戸惑い、月日のたつのがもったいなく感じたものです。しかし、いつまでも呆然としているわけにもいかず、自分で納得できる学校運営を目指して、児童・生徒・職員と共に次の基本方針を定め教育指導に当たることにしました。

（1）児童・生徒の豊かな心を育てる。（2）児童・生徒一人ひとりの良さや可能性を見出し、個性の伸長を図る。（3）組織（学校）は人で成り、思いやりのある温かい人間関係を図る。

この基本方針を教育実践に移していく為に、次の原則をもって当たることにしました。①民主的であること ②目的的事であること ③組織的事であること ④効率的であること ⑤創造性をもつこと ⑥地域性・社会性を保つこと。常にこの原則を守り、教育指導に当たってきたものです。それにして年を追うごとに児童・生徒の学習活動（学力の向上、諸コンクールへの入賞等）、環境整備（花壇コンクール三年連続最優秀等）に成果が現れてきたことは大変嬉しいことでした。

退職を前にして、学校は組織体であることを再確認したことは幸せでした。やはり「組織は人で成り、そこに働く温かい人間関係から、充実した教育活動は生まれる」ということを実感したものです。これも偏に、卓越した教師集団の指導力並びに地域の皆様の学校教育に対するご理解とご協力のお陰であったと感謝しています。

さて、私的なことですが、私の教職42年の生活は富野校で閉じられました。長いようで短い教職生活。今となっては、いろいろなことが思い出され感無量です。特に退職激励会では、当時の教員や児童・生徒をはじめ、地域の皆様までがご出席くださりまして、いまだに目頭が熱くなります。本当にありがとうございました。

結びに、富野小中学校の皆さん、創立50周年おめでとうございます。すばらしい校舎や施設も整備されました。これまで先輩たちが築いてこられた伝統を益々発展させてください。そして、ご両親や地域の人々のご期待に沿うように努めて下さい。富野小中学校の限りないご発展と校区の皆様のご多幸を祈念して思い出を結びます。

50周年を節目に

第13代校長 鳩間真英

富野小中学校創立50周年おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

私は平成11年から13年までの3学年間、富野小中学校で勤務させていただきました。校長一年生でしたが、子ども達や職員、それに地域の皆様のおかげで、楽しく、しかも有意義なそして心に残る三年間であったとつくづく今思っている。その中から、焦点を絞って書くことで『思い出の記』とさせていただくと共にお祝いと富野校の更なる発展飛躍を願うことばに代えさせていただきます。

富野校は少人数、小規模ということは、八重山教育事務所勤務時の学校訪問や『学校要覧』で知識として理解はしていたが、目の前に現れた一握りの児童生徒、おまけにあどけない、小さな小学校低学年の子どもたちに「本当にこれだけ？」という感じだった。

4月6日。午後から入学式。入学生は知花壮一郎くんただ一人。二カ年連続の「ひとりぼっちの入学式」ということで地元の新聞社が詰め掛け、おかげさまであたかも大スター並の華やかさで進行し、`地域の宝、壮一郎くん、を皆で祝う気持ちが伝わってくる、そんな式にすることができた。私もできるだけ分かりやすい言葉であいさつしたつもりだが、壮一郎くんが学校生活にも少し慣れた後日聞いたら、「あまり意味のわからない」堅い話だったらしい。

その日の夜には、各テレビで入学式の様子が放映されたので、多数の友人や恩師から激励の電話をいただき、気を引き締めたことがついこの前のような感じがするが、月日の早さに驚くばかりである。

平成11年6月、学校の最大行事運動会、4月からわずか二カ月後の開催だったが父母や地域の協力もあり、盛会のうちに終わることができた。教職員も父母や地域の方もそれに来賓の種目まで紅白に分け、点数を競うなど小規模校ならでの運動会であった。

11月24日、何とあの日本を代表するほどの大物映画俳優、高倉健さんから手紙とテープが速達で届いたのである。

手紙には

「鳩間真英 殿

拝啓

突然ですが、

映画俳優をやっております高倉健と申します。

今年の6月、石垣滞在中に偶然富野小中学校の運動会に出くわしました。

とても感慨深い運動会でした。

そのときの模様を

恒例のニッポン放送4年目の

『高倉 健 1999 旅の途中で・・・』と話しております。

とっても素敵な運動会をなさっていますね。

お暇な折にでも聞いていただければ幸甚です。 不一」

1999年11月

高倉 健

と書かれ、正真正銘の高倉健さんからの手紙がきたのである。

そして、テープは川平の海（おそらく）の波の音に続いて

「高倉健です。今、沖縄の石垣島にきております。……ボクは沖縄が好きでよく西表島や石垣島にきます。……」で始まり、富野校の運動会に感激したことなどを語った内容である。

テープの中の富野校の部分を要約すると、

「6月の運動会には感激した。地域のお年寄りが参加できる種目があり、お年寄りに対する温かさを感じさせる運動会でした。つい1時間以上も見てしまいました。日本の誇れる運動会として世界に紹介したい」というものである。縄ない競争が学校の運動会の種目としてあり、それに参加しているお年寄りを応援する人々の温かさ感激した、という内容である。

翌々日には地元の新聞で報道されたのでファンの方や父母、卒業生等々色々な方からテープをダビングしてもらえないかとの電話が多数あった。

さっそく、お礼の手紙をと思い、校長からの公文のようなものではつまらないと考え、小学生には『鶯の鳥』と『デンサー節』を三線で、説明書付の歌詞を添え、中学生には「お礼の言葉」を一人ずつ言わせ、録音し送った。

何ヶ月か後、高倉健さんから、今度は双眼鏡と自身が主演の『鉄道員（ぽっぽや）』のビデオを使いの人が職員室まで持ってきたのでみんなびっくりしてしまった。

後でわかったことだが、実はその時、高倉健さんは、富野校まで使いの人と一緒にきていたのだということを書いて残念がったものである。

双眼鏡のお礼に夏休みにシークワァーサーと児童会長の龍馬くんの手紙を送ったら、

「……龍馬くん、ヒラミレモンありがとう。(略)長い間ながめて、やっと食べ終わりました。……(略)」

9月の運動会にぜひ来てください、と龍馬くんは書いたのだが、仕事の都合で行けないので、限定非売品のTシャツが全校生と全職員の分送られてきたのである。

その後、お礼を送ったり、新聞に載ったり、高倉さんの教育関係の記事が送られたりして交流が続いたのである。そして、交流のきっかけとなった運動会のことが「俳優 高倉健が出会った優しい心」「このストーリーを胸の星に」と銘打っていろいろな国で出会った感動した実話の10編の中に富野校のことが『沖縄の運動会』として単行本におさめられ、発売と童子にベストセラーとなり、またまた富野校が日本中へ紹介されることになったのである。

またまたと書いたが、情報技術の進展もあるが、名古屋の放送局が高倉さんから富野校への双眼鏡のプレゼントとこのことをクイズ番組として放送してその録音を送られた来たときみは本当に高倉健さんの変わらぬ人気と大物俳優を実感したものである。

3年間の富野校勤務の中から高倉健さんとの交流のことを中心に書いてきたが、ある生徒に「高倉さんとの交流を一番喜び、最もはしゃいでいたのは、校長先生と給食のおばさん」と言われたように、富野校にとっても私にとっても生涯忘れることのできないビッグなことだと思っている。というのも、高倉健さんからのあるときの手紙で「いい仕事なさっていますね」と最大級のほめことばをいただいたときは、校長をしてよかった。富野校勤務でよかったと心から思ったものである。

転勤後、交流はどうなったかなーと心配していたが五十周年の祝賀会会場に高倉健さんからの手紙が展示されているのを見て安堵したものである。

富野校が五十周年を節目に、ますます隆盛発展しますよう心から祈願し、思い出の記といたします。

(平成11年4月より平成14年3月まで校長として勤務)